

論説文の読み方をつかもう

名前 _____

図解 | 論説文の基本の組み立て

主張・理由・具体例・結論の関係を確かめながら答え合わせをしましょう。

※文章によって、主張・理由・具体例・結論の順番や組み合わせは変わります。

確認① 論説文とは

問1 正しいものを一つ選びなさい。

論説文では、筆者が自分の考えを示し、その考えを支える理由や具体例を挙げながら読み手に伝えます。論説文を読むときに最も意識するとよいことはどれですか。

- ア 登場人物の気持ち
- イ 筆者が伝えたい考え
- ウ 出来事が起こった順番

答え イ

補足：論説文では筆者の考えや主張を中心に読み取る。

確認② 基本の組み立て

問2 理由に当たる一文を抜き出さない。

『朝に少し体を動かすと気持ちよく一日を始められる。体を動かすと頭がすっきりするからだ。例えば私は登校前に五分歩くと授業に集中しやすい。だから朝の軽い運動を生活に取り入れるとよい。』

答え 体を動かすと頭がすっきりするからだ。

補足：理由は筆者の考えに対して『なぜ』と問いかけたときの答えになる。

確認③ 読み取り方

問3 正しいものを一つ選びなさい。

『読書記録を残すと本の内容を振り返りやすい。例えば心に残った一文と感想を短く書いておけば、数か月後でもその本を読んだときの考えを思い出せる。』具体例が分かりやすくしている内容はどれですか。

- ア 本は何度も読み返すべきだ
- イ 読書記録を残すと内容を振り返りやすい
- ウ 感想は長く書くべきだ

答え イ

補足：具体例の前に示された筆者の考えとのつながりを見る。

確認問題

問4 結論に当たる一文を抜き出さない。

『自分の予定を紙に書くと、やるべきことを整理しやすくなる。頭の中だけで覚えようすると、順番を迷うことがあるからだ。私は宿題と翌日の準備を書き出すことで、忘れ物が減った。予定を書いて見える形にすることは、毎日の行動を整えるのに役立つ。』

答え 予定を書いて見える形にすることは、毎日の行動を整えるのに役立つ。

補足：文章の最後で筆者の考えをまとめている一文を答える。

筆者の考えと理由を読み取ろう

名前 _____

A 筆者の考えを探す

- 問1

筆者の考えを一つ選びなさい。
『学校の図書室にはさまざまな分野の本がある。私は、自分が普段選ばない本にも手を伸ばしてみるとよいと思う。思いがけない興味に出会えることがあるからだ。』

ア 図書室には多くの本がある
イ 普段選ばない本にも手を伸ばすとよい
ウ 図書室では静かにするべきだ
- 答え イ**
補足：『私は～と思う』の部分に筆者の考えが表れている。
- 問2

筆者の考えを表す一文を抜き出しなさい。
『休み時間になると、多くの生徒が教室で過ごしている。しかし私は、ときどき外に出て空を見る時間も大切だと思う。短い時間でも気分を切り替えられるからだ。』
- 答え** しかし私は、ときどき外に出て空を見る時間も大切だと思う。
補足：接続語を含めても一文全体を正答とする。
- 問3

筆者の考えを一つ選びなさい。
『私たちの学校では毎週金曜日に花壇へ水をやっている。植物はすぐには大きくならない。それでも、変化が小さいことにも目を向けながら世話を続けることが大切だ。』

ア 金曜日には花壇へ水をやる
イ 植物はすぐには大きくならない
ウ 小さな変化にも目を向けて世話を続けることが大切だ
- 答え ウ**
補足：事実ではなく筆者の評価や考えを選ぶ。

B 理由を探す

- 問4

理由に当たる一文を抜き出しなさい。
『調べものをするときは、一つの資料だけで決めつけられない方がよい。資料によって取り上げる内容や見方が異なることがあるからだ。複数を比べると、情報をより確かに捉えられる。』
- 答え** 資料によって取り上げる内容や見方が異なることがあるからだ。
補足：主張に対する直接の理由を抜き出す。
- 問5

筆者がそう考える理由を一つ選びなさい。
『私は、朝のうちにその日の持ち物を確かめる習慣をつけるとよいと思う。出発直前に確認すると、足りない物があっても準備する時間がないことがある。』

ア 朝は時間が長く感じるから
イ 足りない物に気づいても出発直前では準備できないことがあるから
ウ 持ち物は毎日同じだから
- 答え イ**
補足：本文に示された理由と一致するものを選ぶ。
- 問6

筆者が『声に出して読むことも役立つ』と考える理由を答えなさい。
『文章を読み直すとき、目で追うだけでなく声に出して読むことも役立つ。声にすると、同じ言葉の繰り返しや不自然なつながりに気づきやすくなるからだ。』
- 答え** 同じ言葉の繰り返しや不自然なつながりに気づきやすくなるから。
補足：文末は『から』がなくても意味が同じなら可。

C 主張と理由を結び付ける

- 問7

主張と理由の正しい組み合わせを選びなさい。
主張①『机の上は使う物をしばった方がよい』、主張②『質問は分からないうちにした方がよい』。理由ア『物が多すぎると必要な物を探す時間が増えるから』、理由イ『分からないところをそのままにすると次の内容も理解しにくくなるから』。正しい組み合わせを書きなさい。
- 答え** ①ア、②イ
補足：主張と理由の内容上のつながりで判断する。
- 問8

主張を最もよく支える理由を一つ選びなさい。
主張『自分で立てた予定は、ときどき見直した方がよい。』

ア 一度決めた予定は変えてはいけなから
イ 実際にやってみると必要な時間が予想と違うことがあるから
ウ 予定を書くには紙が必要だから
- 答え イ**
補足：主張に対して『なぜ』と問い、自然につながる理由を選ぶ。

具体例と結論を読み取ろう

名前 _____

A 具体例を見つける

- 問1

具体例に当たる一文を抜き出さない。

『同じ時間勉強しても、途中で短く休むと集中を戻しやすいことがある。例えば私は、三十分勉強したあとに五分だけ席を立つと、その後の問題にも取り組みやすくなる。休み方を工夫することも学習を続ける助けになる。』

答え 例えば私は、三十分勉強したあとに五分だけ席を立つと、その後の問題にも取り組みやすくなる。

補足：『例えば』から始まる具体的な経験を一文で抜き出す。
- 問2

具体例の一つ選びなさい。

『身近な道具でも、使い方を少し変えると便利になることがある。私は教科書を開いたままにしたいとき、大きめのクリップで端を留めている。小さな工夫を試すことは、日々の不便を減らすことにつながる。』

ア 身近な道具は便利である

イ 大きめのクリップで教科書の端を留めている

ウ 小さな工夫は不便を減らす

答え イ

補足：具体的な行動や事例を選ぶ。

B 具体例の役割を考える

- 問3

具体例が何を説明しているか選びなさい。

『失敗した方法にも意味がある。例えば紙飛行機を遠くへ飛ばそうとして何度も折り方を変えると、うまく飛ばなかった折り方からも翼の形と飛び方の関係を考えられる。だから、うまくいかなかった結果も次の工夫に生かせる。』

ア 紙飛行機の折り方一つしかないこと

イ 失敗した結果も次の工夫に役立つこと

ウ 紙飛行機は遠くへ飛ばすべきであること

答え イ

補足：具体例の内容ではなく、その例によって示される筆者の考えを答える。
- 問4

筆者が時計の例を挙げたのは何を分かりやすくするためですか。

『便利な道具でも、使う目的を考えることが大切だ。例えば時計を何度も確認しすぎると、残り時間ばかり気になって作業に集中できないことがある。道具は持っているだけでなく、目的に合った使い方を考える必要がある。』

答え 便利な道具も目的に合った使い方を考える必要があること。

補足：『道具は使い方が大切だということ』など同じ内容なら可。
- 問5

具体例を挙げた目的として最も適切なものを選びなさい。

『人に説明すると、自分が理解できていない部分に気づくことがある。例えば数学の解き方を友達に説明しようとして、途中の理由をうまく言えなければ、そこが自分の理解の弱いところだと分かる。説明することは、自分の理解を確かめる方法にもなる。』

ア 友達に数学を教えるよう勧めるため

イ 説明することで自分の理解の不足に気づけることを示すため

ウ 数学は理由まで覚える必要がないと示すため

答え イ

補足：具体例と前後の主張を結び付けて判断する。

C 結論を読み取る

- 問6

結論に当たる一文を抜き出さない。

『新しいことを始めると、最初はうまくできないことが多い。そこで一度に完璧を目指す、続けるのが苦しくなる。小さな目標なら達成したことを実感しやすい。だから新しい習慣は、小さく始めて少しずつ続けることが大切だ。』

答え だから新しい習慣は、小さく始めて少しずつ続けることが大切だ。

補足：最終段落で筆者の考えをまとめる一文を抜き出す。
- 問7

筆者が最も伝えたいことを選びなさい。

『意見が違う相手と話すとき、すぐに自分の考えを言い返したくなることもある。しかし、まず相手がなぜそう考えたのかを聞けば、自分にはなかった見方に気づくことがある。意見の違いを理解するには、結論だけでなく理由にも耳を向けることが大切だ。』

ア 意見が違う人とは話さない方がよい

イ 自分の考えはすぐに言うべきだ

ウ 意見の違いを理解するには相手の理由にも耳を向けることが大切だ

答え ウ

補足：最後の文だけでなく本文全体と一致する内容を選ぶ。
- 問8

この文章の結論を簡潔に答えなさい。

『情報を集めるとき、数が多ければよいとは限らない。似た内容ばかり集めても、新しい見方は増えないからだ。異なる立場の資料も確かめることで、一つの問題をいくつもの方向から考えられる。情報は量だけでなく、どのような見方を含んでいるかも大切である。』

答え 情報は量だけでなく、どのような見方を含んでいるかも大切である。

補足：本文最後の一文と同内容なら可。

論説文の組み立てを読み取ろう

名前 _____

読解文

問1 本文を読んで答えなさい。

私たちは何かを覚えようとするとき、間違えないことを目標にしがちである。しかし私は、学ぶ途中の間違いには大切な役割があると考えている。間違えると、自分がどこまで理解し、どこから分からなくなったのかが見えやすくなるからだ。

例えば英単語を覚えるとき、同じ単語を何度も間違えたなら、その単語だけを集めて復習できる。もし間違いを記録せず、正解した問題だけを見ていたら、自分の弱いところには気づきにくい。

もちろん、同じ間違いを何度も繰り返すだけでは十分ではない。なぜ間違えたのかを考え、次はどうすればよいかを確かめる必要がある。

このように、間違いは避けるだけのものではなく、自分の学び方を見直す手がかりとして利用できる。だからこそ、学習では間違いを恐れるより、その後にどう振り返るかを大切にしたい。

筆者の中心的な考えとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 学習では一度も間違えないことが最も大切だ
- イ 間違いは振り返ることで学び方を見直す手がかりになる
- ウ 英単語は間違えたものだけ覚えればよい

答え イ

補足：本文全体をまとめた筆者の主張を選ぶ。

A 主張

問2 筆者が『学ぶ途中の間違いには大切な役割がある』と考える理由を表す一文を抜き出しなさい。

答え 自分がどこまで理解し、どこから分からなくなったのかが見えやすくなるからだ。

補足：理由を直接述べている一文を抜き出す。

問3 本文前半で筆者が見直そうとしている考えとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 学習では、間違えないことだけを目標にするという考え
- イ 間違えた問題を復習するという考え
- ウ 自分の弱点を確かめるという考え

答え ア

補足：冒頭の「間違えないことを目標にしがち」という考えを、筆者がその後の説明で見直していることを踏まえる。

B 理由・具体例

問4 英単語の具体例は、どのようなことを示すために挙げられていますか。

答え 間違いを記録すると、自分の弱いところを見つけて復習に生かせること。

補足：『間違いから弱点に気づけること』など要点が同じなら可。

問5 『もちろん、同じ間違いを何度も繰り返すだけでは十分ではない。』とあるのはなぜですか。

- ア 間違いをしたらすぐに忘れる必要があるから
- イ 間違えた理由を考え、次の方法を確かめることが必要だから
- ウ 正解した問題だけを復習する必要があるから

答え イ

補足：直後の内容が理由になっている。

C 段落の役割

問6 英単語の例が書かれている部分の役割として最も適切なものを選びなさい。

- ア 筆者の考えを具体的な場面で分かりやすくする
- イ 筆者とは反対の意見を紹介する
- ウ 文章の話題を別のものに変える

答え ア

補足：具体例が主張をどのように支えているかを考える。

問7 文章の流れとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 問題となる考えを示す→筆者の考えと理由→具体例→注意点→結論
- イ 具体例→結論→反対意見→理由→問題提起
- ウ 結論→具体例→筆者の考え→別の話題→理由

答え ア

補足：本文の各部分の役割を順番に整理する。

D 結論

問8 本文の内容を踏まえ、筆者が学習で大切にしたいと考えていることを四十字以内で書きなさい。

答え 間違いを恐れず、なぜ間違えたかを振り返って次の学習に生かすこと。

補足：『間違えた理由を振り返る』『次の学習に生かす』の二点を含めば正答とする。『間違いを恐れない』は含まなくてもよい。

読解文

問1 本文を読んで答えなさい。

私たちは、何かを早く終えることを効率がよいと考えがちである。しかし、本当に大切なのは速さだけだろうか。私は、必要に応じて立ち止まり、やり方を確かめる時間も効率の一部だと考えている。

例えば作文を書いているとき、最後まで一気に書けば短い時間で終わるかもしれない。けれども途中で一度読み返せば、話題がずれていることや同じ表現の繰り返しに気づき、その場で直せることがある。確認をせずに最後まで進み、あとから大きく書き直すことになれば、かえって時間がかかる。

また、立ち止まることには、目的を確かめる働きもある。作業に夢になると、最初に何をを目指していたのかを忘れ、必要のないことまで続けてしまう場合がある。途中で「今していることは目的に合っているか」と確かめれば、進む方向を修正できる。

もちろん、何度も確認しすぎれば作業は進まない。大切なのは、速く進むことと確かめることを目的に合わせて使い分けることである。

効率とは、ただ時間を短くすることではない。必要なところで立ち止まり、無駄なやり直しを減らしながら目的に近づくことも、効率のよい進め方なのである。

本文の内容として正しいものを選びなさい。

- ア 速く終わる方法なら必ず効率がよい
- イ 必要なところで確認することも効率につながる
- ウ 作業中は何度も確認するほどよい

答え イ

補足：本文全体の内容に一致するものを選ぶ。

総合問題

問2 第1段落から、筆者が自分の考えを直接述べている一文を抜き出さない。

答え 私は、必要に応じて立ち止まり、やり方を確かめる時間も効率の一部だと考えている。

補足：第1段落にある『私は～と考えている』の一文を抜き出す。

問3 作文を途中で読み返すとよい理由を答えなさい。

答え 話題のずれや表現の繰り返しに気づき、その場で直せることがあるから。

補足：『あとで大きく書き直すことを減らせるから』を含む表現も可。

問4 作文の例が示していることとして最も適切なものを選びなさい。

- ア 途中で確認すると、やり直しを減らせる場合があること
- イ 作文は一気に書くと必ず失敗すること
- ウ 作文では同じ表現を使ってはいけないこと

答え ア

補足：具体例から一般的な考えを読み取る。

問5 筆者が作文の具体例を挙げた目的として最も適切なものを選びなさい。

- ア 作文を書く正しい手順を教えるため
- イ 立ち止まって確認することが効率につながる場合を分かりやすく示すため
- ウ 作文には長い時間が必要だと示すため

答え イ

補足：具体例が筆者の主張をどう支えているかを考える。

問6 『また、立ち止まることには、目的を確かめる働きもある。』から始まる部分の役割として最も適切なものを選びなさい。

- ア 筆者の主張を支える別の理由を示している
- イ 作文の例を否定している
- ウ 本文とは関係のない新しい話題を始めている

答え ア

補足：前半とは別の観点から『立ち止まること』の利点を説明している。

問7 本文の結論として最も適切なものを選びなさい。

- ア 効率を上げるには何度も立ち止まるべきだ
- イ 効率とは時間を短くすることだけを意味する
- ウ 速く進むことと確認することを目的に応じて使い分けることが大切だ

答え ウ

補足：最終段落と本文全体の内容に合うものを選ぶ。

問8 筆者が考える『効率のよい進め方』とはどのような進め方ですか。五十字以内で書きなさい。

答え 必要なところで立ち止まり、目的や方法を確認め、無駄なやり直しを減らして目的に近づく進め方。

補足：「必要なところで目的や方法を確認め」「無駄なやり直しを減らしながら目的に近づく」の二点を含めば正答とする。